

6月6日に行われました、私の一般質問についてご報告いたします。

1. 大山小跡地等の問題について

大山小の閉校から跡地利用については、地域にとっては、たいへんな関心事であります。さらに交通公園の改修予定や、隣接する都営大山西町アパートの解体・改築工事とこの一体については、それぞれ切り離さないで考えていただきたいと思っております。

Q 1 大山小跡地利用で、土地所有者の方との合意が延び延びになっているのは何故か？

A-1 格評価等の面から折り合わず、測量や不動産鑑定を実施中。
26年度早期に基本的活用策の案をまとめたい。



大山小跡地

Q 2 大山小跡地の行政需要はないという委員会答弁は今も変わらないか？

A-2 区が直接施設を新たに建設することはないが、民間事業者が敷地全体を一体的に活用し、公共的・公益的需要に供する方向で調整中である。



交通公園事務棟

Q 3 大山小跡地の利用方法が決定した後、交通公園の事務棟や公園内に十分な災害時の避難所機能をもたせたいがどうか？

A-3 近隣学校に避難所の備蓄量を増やすが、交通公園の改修には十分なオープンスペースを確保する。事務棟については大山小跡地の動向を踏まえ、改修後の公園のあり方について検討する。

2. 本庁舎清掃委託契約について

本庁舎の清掃委託契約では、毎年、請け負う清掃業者が変わっていますが、実際に清掃業務に従事している方は長い間、継続して雇用されてきました。しかし、今年度新たに落札した業者は、3月まで従事してきたアルバイト雇用の全ての清掃従事者と雇用契約を結びませんでした。



本庁舎北館・南館

Q 4 継続雇用されず収入を断たれた方がたくさん出たことについて道義的責任を感じないか？
また、仲裁に入ることはなかったか？

A-4 原則的には、区の権限の及ぶところではないが、落札業者と連絡をとり、協力を依頼したが残念な結果となった。

Q 5 このような一定規模以上の委託契約の場合、3年・5年という一定期間を定めての委託契約をできないか？

A-5 複数年化につきましては、雇用の安定の観点から、その対象範囲・契約方法・実施時期等について慎重に検討を進めていく。

3. あいキッズについて

長年続いてきた学童クラブ事業に加え、放課後対策事業としてのあいキッズ事業が併用されていたわけですが、今年4月から新あいキッズが開始され、来年度からはすべての小学校において、新あいキッズへと移行します。

移行時期ということでもありますので、保護者の皆さんからの要望や不安の声に真摯に耳を傾けていただきたいと思っています。

Q 6 おやつ料金を1500円にしたことでの量や質に対する要望は寄せられていないか？
また、提供される時間帯への要望はないか？

A-6 時間帯への苦情等はない。内容については概ね好評であるが、量を増やして欲しいという要望が一件あった。



あいキッズルーム

Q 7 新あいキッズの法人が活動拠点を拡大したり、自主的に指導員を加配する場合に、補助金の拠出はできないか？

A-7 委託料の範囲内で認めている。

Q 8 教育委員会・受託業者・保護者代表による保護者会の開催を求めるがどうか？

A-8 7月開催予定。



子どもたちの出席カード

4. いたばし魅力ある学校づくりプランについて

本年2月に、いたばし魅力ある学校づくりプランが発表されました。

平成21年に改築三校調整会議において、板橋第一小学校はオープンスペースを導入。赤塚第二中学校と中台中学校では、教科センター方式を取り入れると決定し、板一小・赤二中では校舎が完成して、すでにそれぞれの方式を取り入れての授業が始まっています。

Q 9 オープンスペース・教科センター方式を採用する根拠は何か？

A-9 オープンスペースは、普通教室に隣接した空間を設置し、教室の壁面を取り払うことで多様な生活集団、学習形態への対応、学習の動機付けとなる空間を生みだし、この空間を活用した共同学習活動が実現できる。
教科センター方式は、各教科専用の教室で教科ごとに準備された教具、教材、視聴覚器などを活用することにより、生徒の自立的、主体的な学習態度を育むとともに、教員の協同体制の確立、多様なコミュニケーションなど、より充実した授業を実現できる。

Q 10 平成19年にオープンスペースを導入した大谷口小学校の授業改善効果はどうだったか？
また、それを板一小にどう生かすか？

A-10 オープンスペースの有効活用で、子どもの学習への興味・関心や意欲が向上した一方で、教員の指導力の育成が重要であることが明らかになった。
改築前より大谷口小の教員とともに研究を進めてきた。また、オープンスペースの効果的な活用方法の共同開発をし、教員の指導力向上に努めてきた。